

五代教授

根岸 博 教授

昭和6年(1931)―昭和30年(1968)



明治22年10月19日埼玉県北埼玉郡埼玉村の医師三郎の長男として生れる。大正5年12月東京帝大医科大学卒業後、東大伝染病研究所に入所。東大皮膚科泌尿器科（土肥慶蔵教授教室）を経て、昭和6年に岡山医科大学教授に就任された。以後昭和30年の退官までの24年間、医学教育、研究、診療または大学行政の各方面に多大な足跡を残された。昭和27年に**第51回日本皮膚科学会会頭、第40回日本泌尿器科学会会長**をつとめられた。

研究業績は皮膚科、泌尿器科、性病の各方面にわたる。学位論文は『皮膚疾患における血液化学的研究』であり、それまでの病理形態学が主流を占めていた当時の皮膚科学研究分野に、他に先んじて病態生化学的思考法を導入し、新風を吹き込まれた。岡大在職中は皮膚感受性の研究に合わし、電解質、血小板、ビタミン、他臓器機能との関連、皮膚色調について多数の論文発表がある。性病では恩師土肥教授の影響もあり、特に梅毒に関して、梅毒血清反応、梅毒での糖・蛋白・脂質諸代謝、駆梅剤の吸収排泄、実験梅毒などについて厩大な業績を残された。さらに泌尿器科領域では泌尿器結核、尿路結石、前立腺肥大症をはじめ、**大腎臓移植**による腎機能の研究では動物実験的研究の先駆となり大変優れた業績であった。

また病院長として戦前、戦後あわせて3期6年間の付属病院長をつとめられ、戦災のため烏有に帰した付属病院の復興に日夜尽瘁され、重責を果たされた。

さらに考古学のご識見をもとにした県文化財保護特別委員としての活動、ミシガン大学との国際協力による瀬戸内海沿岸地方文化の調査活動、岡山三悪追放協会会長としての性病予防運動、岡山日仏協会会長、岡山ライオンズクラブ会長、地区ガバナーを歴任されるなど多方面に社会貢献をされた。

日皮会誌：90(8)，661-664，1980.

『日本皮膚科学会名誉会員、岡山大学名誉教授根岸博先生のご逝去を悼む』より抜粋、改変

六代教授

大村順一 教授

昭和30年(1955)―昭和35年(1960)



就任後、昭和35年岡山大学の皮膚科・泌尿器科学教室から皮膚科学教室が分離独立することとなった時、大村教授は泌尿器科学教室を担当した。昭和43年（1968）まで担当された。

写真は岡山大学医学部泌尿器科学教室および同門田村誠一郎先生のご厚意による